

データでみる軽トラ市 (その29)

愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長
地域政策学部教授

戸田敏行

軽トラ市 in ジャパンモビリティショー 2025

1. 軽トラ市 in JMS2025の位置づけ

軽トラ市 in ジャパンモビリティショー 2025が11月8日に開催された。11月号では、8月30日・31日の「復興輪島朝市×全国軽トラ市 in 輪島」について報告したが、全国軽トラ市の対をなすのが、2019年から始まった「軽トラ市 in 東京モーターショー」であり、2023年からの「軽トラ市 in ジャパンモビリティショー（以下JMS軽トラ市）」である。

全国軽トラ市が各地の軽トラ市の横の連携という現在に視点を置いているのに対して、JMSは未来の軽トラ市を試行するものであり、両者は補完関係にある。2025年は全国軽トラ市が被災地復興という従来の全国軽トラ市とは異なったテーマを持ったために、JMS軽トラ市にも継続されている。

写真1をご覧いただきたいが、ビッグサイト前面に軽トラ市が展開され、モビリティの将来方向の一つを示している。今回は、主催者である（一社）日本自動車工業会軽自動車委員会（委員長 鈴木俊宏スズキ㈱社長）が、独自のメディアミーティングを設けて各メディアへの情報を提供する場が初めて設けられ、筆者も軽トラ市の概要を説明させていた



写真1 軽トラ市のゲート

だいた。また、前日の7日には交流会が行われ、全国軽トラ市とは異なったメンバー間の交流機会ともなっている。

2. 軽トラ市 in JMS2025の出店内容

図1に示すように、会場はメイン通りに全国各地の11軽トラ市団体から38店が配置された。軽トラ市名をあげると、岩手県雫石町：元祖しずくいし軽トラ市（2台）、福島県福島市：福島駅前軽トラ市（6台）、千葉県君津市：清和トラック市（4台）、長野県長野

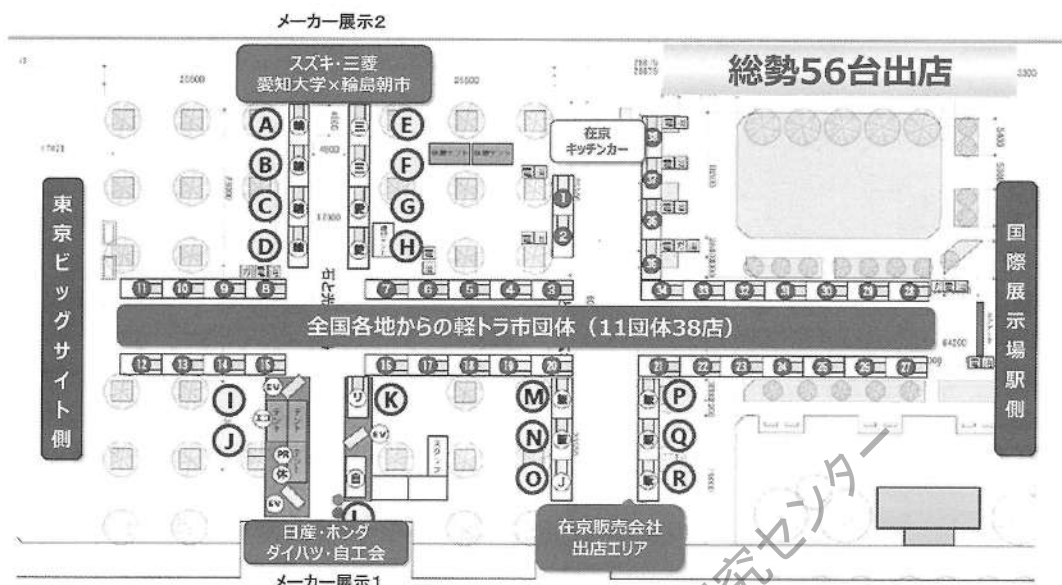


図1 会場の配置図 (自工会資料を加工)

市：しののけ軽トラ市（2台）、岐阜県下呂市：下呂軽トラ市（1台）、静岡県掛川市：かけがわけっトラ市（4台）、裾野市：わくわくふくらむ軽トラマーケット（5台）、浜松市：軽トラはままつ出世市（6台）、磐田市：みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市（2台）、愛知県新城市：しんしろ軽トラ市のんはいルロット（1台）、富山県川南町：「定期朝市」トロントロン軽トラ市（2台）等であり、多くの軽トラ市から複数台数の出店がなされている。

出店内容は、キッチンカー・食品販売と物販に大きく分けることができる。ビッグサイトでの保健所の営業許可は厳しく、近隣県であればキッチンカーで許可を得た参加が可能であるが、遠方の場合にはなかなか飲食の提供が困難である。一方、物販は各地域の独自性が出しやすく、恒例となっている川南軽トラ市のピーマン詰め放題、長野市篠ノ井軽トラ

市のリンゴや野菜（写真2）、掛川軽トラ市の和栗（写真3）、ウーブンシティが位置する裾野市軽トラ市の地元スイーツなどがあった。

全国の軽トラ市以外に在京販売会社の展示などがある。メーカー展示1では、「未来の軽トラ市の新たなカタチ」がテーマであり、ダイハツ工業㈱では岩手県雫石町の醤油店とJMS会場をWeb会議ツールで結んだりモート軽トラ市（写真4）、日産自動車㈱や本田技研工業㈱ではECOな軽トラ市が展示された。メーカー展示2は「復興支援軽トラ市」がテーマであり、愛知大学とスズキ㈱の共同研究による輪島朝市復興軽トラ市の展示を行い、三菱自動車工業㈱の災害時B E V活用として電源を提供していただいた。

3. 輪島朝市復興軽トラ市

ビッグサイトを背景に出張輪島朝市の店舗



写真2 篠ノ井軽トラ市のリンゴ等



写真3 掛川軽トラ市の和栗



写真4 リモート軽トラ市

が4店並び、向かい側に愛大・スズキの2台と三菱の2台が配置された。朝市の店舗は、輪島を代表する漆器店2店と海産物1店、やはり輪島の特産となる塩の店舗が1店である。愛大・スズキのチームでは、1台が復興軽トラ市輪島トークショー（写真5）と全国軽トラ市のデータ展示（写真6）、もう1台でリモート輪島朝市を行った。いずれも輪島市のスーパー・ワイプラザ内にある輪島朝市との中継による対話形式である。

復興軽トラ市輪島トークショーの出演者は、輪島市朝市組合の富水長毅組合長（写真

7）、出張輪島朝市の橋本三奈子事務局長、3大軽トラ市から雫石軽トラ市の相澤潤一実行委員長、新城軽トラ市の安彦誠一委員、川南軽トラ市から宮崎吉敏川南町長、そして自工会からスズキの鈴木俊宏社長、ダイハツ工業の井上雅宏社長であり、筆者がコーディネーターを務めた。

まず、富水組合長から、全国軽トラ市で中間報告した輪島朝市復興ビジョンの施設整備が、焼失した朝市通りの区画整理地内で動き出したこと、同氏が輪島商工会議所の副会頭に選任され地域体制が整ってきたと、全国軽トラ市の効果が報告された。しかし、ビジョン実現には数年の整備期間が必要であり、まず朝市の目の前の課題に軽トラ市関係者や軽自動車業界からの支援をお願いしたいと発題があった。橋本事務局長からも整備期間4年間ほどは出張朝市が重点であり、軽トラ市への出店が重要となると強調された。

これを受けて、3大軽トラ市からは「むしろ輪島の人から元気がもらえた」と、軽トラ市と輪島朝市の共感性が発言された。また、鈴木社長からは生活朝市の原点に戻った取り



写真5 トークショーの締めは「がんばろう能登」



写真6 立ち寄られたトヨタ自動車佐藤社長

組みの重要性、井上社長からは軽トラのベースは荷車と、両者が連携する基本的視点が提供された。そして最後に「1200年の歴史を持つ輪島朝市は必ず復活する」、そのために全国軽トラ市を通して応援したいと結ばれた。

また、リモート輪島朝市は、ワイブラザの朝市店舗とJMS会場を結ぶもので、出張朝市の新しい形態の実験である(写真8)。今回は学生がMCとなって、店主とJMS会場の来場客の会話がどう円滑に運べるかに注目したが、会話も楽しめることが確認された。

4. まとめ

3回目となるJMS軽トラ市であり、軽トラ市関係者や軽自動車業界にも定着してきたと思える。今回は、8月の全国軽トラ市とJMS軽トラ市が輪島朝市の復興支援を共通のテーマとしてきた。輪島朝市復興は一定の方向を示しつつあり、より具体的な連携が必要となっている。全国の軽トラ市と輪島朝市とが、相互支援的な関係を構築する段階にあると言えるだろう。



写真7 輪島から中継する富水組合長



写真8 リモート輪島朝市を楽しむ子ども